

本誌はネイチャーゲームの英語名である“Sharing Nature”（シェアリングネイチャー）をテーマに、自然と人のつながりやつき合い方を見つめる情報誌です。



特集 ネイチャーゲームの故郷

自然と 調和する暮らしを实践する アナンダ村



P.1 日本の民話から「きつね火」

ネイチャーゲームの森 80号

ネイチャーゲームは米国のナチュラリスト ジョセフ・コーネル氏により発表された活動です。
みる・きく・さわる・かぐなど、私たちひとり一人が持っている感覚を使って、楽しみながら自然を体験する活動です。

日本の民話から「きつね火」	1
シェアリングネイチャーを深めよう	5
テーマ別実践ヒント《高齢者》	6
達人から学ぶ「学びを实践に活かそう!」	7

自然を丸かじり《太陽の光を楽しもう》	8
ネイチャーゲームでひろがるつながる《ESD-J》	8
あなたの本棚見せて!	9
ネイチャーゲーム川柳	10

SHARING NATURE COLUMN

日本の民話から Vol.7

日本の民話には、自然の化身ともとらえられる妖精や妖怪が多く登場します。
彼らと人間との関わりから自然と人のつきあい方を考えてみませんか。



写真／王子稲荷大社（東京都）



【きつね火】

人気のない所に灯る不思議な火を“きつね火”と言い、狐の吐息が光っているともされた。人の気配を感じると消えるものや、追いかけてくるもの、中には夜道で人を道に迷わせるものがあったとされる。

文・高畑吉男
イラスト・井上みさお

闇夜に漂う妖しい火は、狐の吐息？

その昔、今の東京都北区王子には、大きな榎の木がありました。毎年大晦日になると、この榎を目印に、関東全域の狐が集まり、王子稲荷に参拝したといいます。この時に見えるきつね火の数で、近隣の農家は翌年の豊凶を占ったといわれています。多くの田畑があり、里山が広がっていた時代には、狐などの動物は身近な生きもので、狐も人も互いの領域を侵すことなく共存していました。そんな人と自然のつき合い方を、昔話から垣間みることができます。皆さんの住む街には、どんな人と動物のお話がありますか？



Special feature - 19

ネイチャーゲームの故郷

自然と

調和する暮らしを実践する

アナンダ村

取材・文／伊東久枝
取材協力／園田恵一／村田徳子／藤田航平／佐藤久美子
写 真／浜 豊雄／藤田航平
構 成／編集部

ネイチャーゲームを通して
真に伝えたいもの。
その姿を求めて：

カリフォルニア州、シエラネバダ山脈の麓に位置するアナンダ村。そこはネイチャーゲームを考案した米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏が暮らし『Sharing Nature with Children (邦題：ネイチャーゲーム1)』を執筆したところです。

この夏、日本協会では7年ぶりにこのアナンダ村を訪ねる研修ツアーを行いました。コーネル氏のネイチャーゲーム考案のバックボーンともなった地とはどんなところなのか。訪れた人びとが口々に「真に自然と調和した暮らしがある」という、村と人びとの暮らしの一端を、ツアーに参加された方々の感想を交えながら紹介します。



アナンダ村

カリフォルニア州ネバタ市郊外につくられた「共同体」。360ヘクタールの敷地に、さまざまな国から集まった70家族約250人が自然と共生した暮らしを送る。村内には学校やマーケットの他、電力会社、建築会社、自動車修理工場などもある。年間を通してさまざまなセミナーが開かれ、世界各地から多くの人が訪れる。



ヨガナンダの思想が生きる コミュニティ

アナンダ村はアメリカにヨガを伝えたインドの指導者、バラマハンサ・ヨガナンダに学んだクリアナンド氏（本名：ドナルド・ウォルターズ）によって、1967年に設立されたコミュニティです。東洋思想とキリスト教を融合させた考えのもと、現在世界各地から集まった70家族約250人が自然と調和した暮らしを送っています。村民のほとんどはベジタリアン。ヨガや瞑想を生活の一部に取り入れ、シンプルな住居で精神性を大切にしたり暮らしを営み、村はいつも静かで穏やかな空気に満ちています。

アナンダ村には独自の自治組織があり、学校や信用組合など、共同体として共有する多くのものを村民が力を合わせて維持・管理しています。さらに村内では農場や自然エネルギーの電力会社、マーケット、レストラン、自動車修理工場など、生活に必要な多くの事業が展開され、村民によって運営されています。もちろん村民のなかには、近くの町に働きに出ている人も多くいます。

ここにネイチャーゲームの考案者ジョセフ・コーネル氏が居を移したのは1976年。ヨガナンダの思想を具現化するコミュニティのあり方に惹かれ、以後30年以上この地を拠点に、世界各地で「シエアリングネイチャー」の講演や野外活動の指導を行っています。

アナンダ村の空気をつくる セルフ・オフアーリング

アナンダ村を訪れた人が口をそろえて話すのが、村人のやさしさ、隣人や訪問者に対し「気持ちのい



村の中には外灯はほとんどなく、自然の明るさや暗闇をそのまま楽しむことができます。敷地内には鳥やリス、キツネ、そしてクマやマウンテンライオンが生息。彼らの生活を脅かさないように一定の距離を保ち、同じ場所を共有しています。

い時間」を提供しようとしているその態度の心地よさ。それは村に棲む生きものにも伝わり、村全体を静かに包んでいるようです。

「目を覚ますと、窓の外は自然そのもので、外を歩けば野生のシカや七面鳥が当たり前にいる。そしてそれらが人を恐れず、湖の魚も逃げずによってくる。人間と生きものの関係も調和している。シエアリングネイチャーの真の意味が感じられる場所でした」と話すのは、山口県から参加したネイチャーゲームリーダー歴20年の村田徳子さん。

「ネイチャーゲームで伝えようとしていることゝものの見方、価値観は、以前から生活に近いものだと思っていました。それをアナンダ村で確信したように思います。とても明解になりました」といいます。

コーネル氏は、シエアリングネイチャーの目標を、「楽しい自然体験活動をして、人びとが生命あるすべてのものと一体感や調和を感じる経験を手伝えること」といいます。その体験により人の意識が向上すると、物事の認識が変わり、認識が変わると行動が変わり、社会全体を変えることができるのだと。

アナンダ村の人が大切にしていることのひとつに「セルフ・オフアーリング」人のためになることを自ら提供する」ということがあります。その姿勢は、「自己」という認識が身体を超え、周囲の生命あるすべてのものに広がることにより、周りのものに対し無償の愛を提供できるようになる、その現れと考えられています。そして、この「自己」という認識が身体を超え、周囲の生命あるすべてのものに広がる経験こそが、コーネル氏がシエアリングネイチャーを通して多くの人に提供したいと考えていることなのです。

「思考」と「情報」を大切に 小学校教育

今回のツアーでは、コーネル氏のレクチャーやワークショップ体験の他、アナンダ村の自然を楽しむ時間や村内の施設訪問なども行いました。そのなかでも参加者の人たちに印象深く映ったのが小学校。「小学校を訪ねて話を聞いたことで、アナンダ村を理解できた気がする」という声も聞かれたほど。そこにはネイチャーゲーム指導者の姿勢と共通するものも多く感じられます。

アナンダ村の小学校では「身体・感情・意思・知性」のバランスのとれた人を育てることを目標に、「思考」と「情報」両面を重視した教育が行われています。

「歴史を教えるでも、『誰がいつ何をした』だけでなく、その人はなぜそれをしようとしたのかを伝え、考えさせることにより、子どもたち自身が、『何ができるのか、何をしたいのか』を導きだす教育。本来やりたいことをやれるようにする、その子にしかできないことを引っ張りだす。まさに『教える』教育ではなく『導きだす』教育だと思います」（村田氏）

子どもの人間性に合わせた授業、人生そのものを考えさせる授業を目指し、一人ひとりの子どもが持っている特徴を大切に扱う教育を行っています。

「ネイチャーゲームも同じ考えのもとにつくられたのだと思う」というのは、ツアーに同行した日本



研修ツアーでは、コーネル氏の話の聞いたりワークショップを受けたりする時間も設け、コーネル氏の思いを参加者とともにシェアしました。

協会スタッフの藤田航平さん。前出の村田さんも「ネイチャーゲームの指導も、その子にしかない気づきや考えを導きだし、受け止めることを大切にしますが、とても近いものを感じました」といいます。

瞑想（メディテーション）で育まれる心がプログラムを変える？！

アナンダ村の人たちの生活で大きな位置を占めているのが、ヨガや瞑想の時間です。今回のツアーでもフリータイムに参加者が毎朝ヨガや瞑想を体験できる時間がありました。

そして、この一見シェアリングネイチャーとはかけ離れているように思うヨガや瞑想が、「指導においてとても重要だと気がついた」という参加者が多くいます。

なかでも、東京で幼稚園の事務局長を務めネイチャーゲームの指導や指導者育成を行っている園田恵一さんは、帰国後も毎日瞑想の時間を設けているといっています。

「自然案内人は自然に対しても、相手（参加者）に対しても、謙虚であり、すべてを受容できる懐の深さをもっていないけません。元気のいい「カワウソ」のアクティビティを行うときでも、平穏さを持つていたい。心の器が大きくなると、予期せぬことが起きたときに、すぐにあふれます。この「心の器を広く深く持つ」ために、メディテーションが大切だと改めて思いました。周りにどれほど素晴らしい自然があっても自分の気持ちにそこについていないと、聞こえていても聞こえない、見えていても見えないことがありますから」

今回はコーネル氏のワークショップも自然を直接体験する「クマ」のアクティビティや、感動をわか

ちあう「イルカ」のアクティビティが多く、「ゲーム的なおもしろさではなく、裏にある深いもの、精神性のある深いものがストーンと心に落ちた」という園田さん。

今回アナンダで感じたさまざまなことが、今後プログラムに対する気持ちの置き方、フィールドへの目の向け方など、要所要所に現れ、指導が変わってくるだろうと話します。

アナンダ村での研修はわずか5日間。けれどそのなかで参加者それぞれの心に落ちた種は、今後さまざまな芽を出し花を咲かせていくことと思います。今回のアナンダ村での体験が、参加者それぞれの指導にどう生かされていくのか、とても楽しみです。



2012年アナンダ研修ツアー参加者。北は北海道から南は徳島まで、全国各地から28名が参加しました。

シェアリングネイチャーを深めよう

— ジョセフ・コーネルからの
メッセージ

vol.10

穏やかさの
重要性

翻訳：藤牧智子



『シェアリングネイチャー 自然のよろこびをわ
かちあおう』発売中！

Joseph Cornell's Message from Ananda



Joseph Cornell

ジョセフ・コーネル

1950年米国カリフォルニア州生まれ。野外教育インストラクターを経て、1979年『Sharing Nature with Children』を発表。現在、世界的なナチュラリストとして活躍。米国カリフォルニア州アナンド村で瞑想やヨガ、菜食主義を取り入れた自然と調和する日常生活を送っている。シェアリングネイチャーワールドワイド会長。(社)日本ネイチャーゲーム協会名誉会長。

森林生態学者らの研究で、植物は個々に機能しているわけではないということがわかってきました*。木は根系を通して他の木々と地下でつながっており、どの木がもっとも栄養を必要としているかによって、互いに栄養分をわちあっているというのです。ある実験で、研究者らは一本の木を完全に布で覆い、日光から一切養分を作り出すことができないうようにしてしまいました。その結果、研究者らは、近くの木々がクモの巣のような菌糸体（生きた菌の細胞）のネットワークを通して布で覆われた木に必要な栄養を与えていたことを発見したのです。

森は世界の共同体の原型のひとつです。

感性の豊かな人々は、自然に内在する調和、愛、喜びを感じることが出来ます。シェアリングネイチャー（ネイチャーゲーム）は、これらの資質が自然の中だけでなく、自分たち自身の中にもあることを体験するのに役立ちます。人は調和と愛を感じたとき、初めてあらゆる存在に対して思いやりをもち、協力的に暮らせるようになるのです。

私は幼い少年の頃から、自然との深い一体感を感じたいと願っていました。そして20代前半、ヨセミテ国立公園の大自然の中で、私は自分自身が拡張し、近くの氷河湖や周囲の山々を自分の中に取り込んでいるかのような

感覚になったのです。大いなる静けさを体験した瞬間でした。その体験があまりにも喜びに満ち、有意義だったため、私はずっとこのように生きていきたいと思いました。

そこで私はこのような意識の状態を育むために瞑想の方法を学びました。瞑想は心を落ち着かせ、知覚を高め、一体感や自然への愛を与えてくれます。私は1973年以来毎日瞑想を行い、意識の拡張体験を増やそうと努めてきました。瞑想は、私にとって、すべての人々へのより大きな愛を感じさせてくれるものでもあります。ネイチャーゲームのプログラムの考え方である「フローラーニング」の目的は、人々が自然との深い体験を味わう手助けをすることです。「わたしの木」という活動を体験する子どもは、自分の木と深いつながりを感じます。自然との直接体験は、知覚する者と知覚される者がひとつになることに起こるものなのです。

フローラーニングの直接体験の段階（第三段階／クマ）は、瞑想に相当する効果があります。どちらも人々にダイナミックな平和と「自己の拡張」の感覚を与えてくれます。この段階のネイチャーゲームは、いずれも参加者に、瞑想的な体験を味あわせてくれます。

布で覆われた木を他の木々が「養っていた」ことを発見した研究者たちは、これは健康で

旺盛な土壌においてのみ起こりうる現象であると語っています。これは人間関係においても同じことです。思いやりに満ち、お互いのもっとも高尚なところを認め合う健康な「土壌」をもつコミュニティでは、すべての個人が花開きます。

妻と私が40年間暮らしてきたアナンド村を訪れる訪問者は、誰もがアナンド村の住民たちが示す思いやりと愛に大きな感銘を受けます。これは日々の瞑想とお互いのもっとも高尚な部分を尊重し合ってきたことの結果です。

シェアリングネイチャー（ネイチャーゲーム）の指導者は、穏やかで愛に満ちていなければならない。指導者としても、人としても成功するでしょう。私は、皆さん自身の人生に、そして周囲の人々に穏やかさと喜びをもたらすために、皆さんに毎日シェアリングネイチャーの内省的なアクティビティを行うことをおすすめしたいと思います。

*『Mother Tree』（母なる木）

現在カナダのプリテッシュコロンビア大学の教授で森林生態学者である、スザンヌ・シマード博士（Suzanne Simard Ph.D.）が発表。
参考サイト<http://ipps2012.wordpress.com/organizing-committee-2012/inspiration/>



今回の お題は、高齢者

高齢者の方を対象としたネイチャーゲームは、とても大きな可能性を秘めています。一方で、さまざまな配慮が必要です。どんなことに気をつけたらよいでしょうか？



取材・文 大地佳子

高齢者を尊重し、 好奇心を引きだそう！

この分野のポイント！

- ・文字を大きくしたり、絵や写真を使うなど、見やすくわかりやすく。
- ・体調、持病、身体能力や記憶力等は事前にチェックし、無理がないようアレンジする。
- ・時間は最大でも2時間程度と短くし、疲れないようにする。
- ・説明は簡単に、アクティビティ中心にしてやる気を引きだす。
- ・高齢者の方の、豊富な知識や記憶を引きだし、尊重する。

おすすめネイチャーゲーム

- <ははじめまして><ノーズ><色いくつ><落ち葉キャッチ><フィールドビンゴ><フィールドパターン><カモフラージュ><森の色合わせ><宝探し><大きな葉っぱ><感触の宝箱><タッチ&フィール><パーティカルボエム><美の小道><アニマルウォーク（職員がやって見せる）> など

こんな工夫をしています！

庭田安治さん

（新潟県・元、民生委員）

有料老人ホームやデイセンターで、〈はじめまして〉や〈ノーズ〉の他、施設内に飾られた花を使った〈美の小道〉や、果物等を使った〈タッチ&フィール〉等のアクティビティを行いました。車いすの方が、積極的に動いてくださるようになり、施設の方も驚いていました。小学生と一緒にのプログラムで世代間交流も行いました。



数井美智子さん

（京都府・元、デイセンター職員）

同じアクティビティを何度も行くと、高齢者の方がだんだん安心して参加できるようになります。〈ノーズ〉では、高齢者の方の知識を活かして一緒に問題を作ることもありました。思い出を話す場となり、リハビリにもつながります。また、桜の花びらで〈落ち葉キャッチ〉をすると、車いすの方も参加し、感激していました。



吉本 洋さん

（熊本県・みふねもりもりネイチャーゲームの会）

特別養護老人ホームで、散歩等、日常生活の中にネイチャーゲームを取り入れました。〈感触の宝箱〉では、指先の感覚に集中することで、感覚が研ぎ澄まされます。また、ツバキの実やドングリから、昔の思い出や生活の知恵がよみがえったり、認知症の方が意外な発見をしたりと、高齢者の方自身の可能性が広がりました。



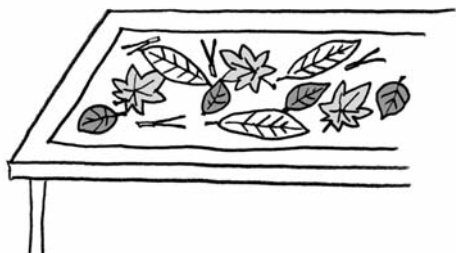
※指導員ハンドブックアクティビティ編P.148参照

おすすめの アクティビティ 〈木の葉のカルタとり〉

アレンジ
の
ポイント

- ・座って行う。
- ・全員が取れるよう、取り札用の木の葉を人数分用意する。
- ・見つけれない人には声をかけてフォローする。

①



何種類かの葉を集め、机やシートの上に並べる。同じ種類の葉を、人数分以上用意し、全員が同じ葉を取れるように準備する。

②



ふくろの中から、葉を一枚取り出して見せ、参加者に、シートや机の上に置かれた葉の中から、同じものを探してもらう（座ったままでよい）。

③



全員が葉を取れたら、葉を観察し、その植物についての話をする。参加者の方から、植物についての思い出を話してもらってもよい。

達人

から学ぶ

【その十九】

ネイチャーゲームトレーナー

大木 潤子さんの巻



おおき じゅんこ
(ニックネーム：サイモン)

地域の子どもたちに頼まれ、子供会づくりから始めたレクリエーション運動が現在は大学や県サイドで教えるまでになっていった。ネイチャーゲームが日本に上陸した時からぞっこんぼれ込み、ひたすら運動・活動を続けている。全国研究大会は最初から連続参加していることが自慢。

学びを実践に

活かそう！



いつも子どものように自然を楽しんでいる大木さん。大木さんがネイチャーゲームと出会ったことでご自身に起こった変化や学びが、どのように実践に活かされてきているのか、これまでに思い返して語ってくださいました！

今年のアナンダツアーに参加し、あるエピソードを思い出しました。1995年、第6回アナンダツアーに参加した時のことです。当時、トレーナーになったばかりだった私は、自然環境のことなどあまり知らず、こんな自分がトレーナーになって本当によいのだろうか…と不安な気持ちでいっぱいでした。そこで、コーネルさんにその気持ちを打ち明けてみたのです。コーネルさんは私に、「あなたは、ネイチャーゲームが好きですか？」と尋ねました。私は、「大好きです！だからこそ、この感動を多くの方々に伝えたいのです」と答えました。すると、「その気持ちがあらばいいのです。あなたの感動を伝えてゆけばいいと思います。そして、もしもそれ以上の自分になりたいのなら、身近な自然環境の勉強をするといひでしよう」とアドバイスをしてくださいました。

コーネルさんのこのアドバイスが元で、私は身近な疑問から少しずつ学び始めることにしました。当時環境問題ははしりの段階で、一般的には難しい課題でした。私には難しい学識書はわからないので、近所の図書館から図表やイラストが使われた環境問題解説書を貸りてみたり、自然を題材にした絵本を毎日のように読むようになりました。そうしているうち、自然のことや地球環境のことを、知識として根底に持ちながら自分の言葉でその大切さを語れる材料が増えていったように感じます。ネイチャーゲームの指導に、ふくらみができたのです。また、自然に対する考え方自体も少しずつ

つ変化してきました。生きものは自分の親友、人間も生きものと同じ地球の仲間なんだと考えるようになり、草や花にも話しかけるようになりました。相手にやさしい目を向ければ、相手も好意的になるのは、自然も同じではないかと思ったのです。また、人に対しても自然に対しても「相手のことをもつと知りたい」と思うようになりました。例えば、見かけだけで毛嫌いしていた生きもの（ヘビやトカゲ）に対しても、怖がらずにじつと見て観察してみようようになったのです。そのうち徐々にですが、気持ち悪いと感じていた部分が薄れ、かわいところもあるな…と思うようになりました。自分でも不思議でしたが、今では大好きな生きものの1つで、小さなヘビであればつまんで子どもたちにも手触りを教えてあげられるようになりました。

ネイチャーゲームと出会って24年、私が絵本などから学ぶようになったことも、ヘビを好きになったことも、多くの仲間ができたことも、すべてネイチャーゲームのおかげです。ネイチャーゲームを通して芽生えた「相手のことをもつと知りたい」という気持ちが、私自身を変えたのだと思います。これからもこの気持ちを大切に、私が感じてきたネイチャーゲームの楽しさや魅力、たくさんの人たちに伝え、ネイチャーゲームの仲間を増やしていきたいと思っています。それが、私の使命であり、私の親友である生きものたちのために自分ができることでもあるのですから。



シェアリングネイチャー
パパ教室

2012. 9/30
野村尚史 (東京都)

都会で生まれ育った自分にとって、どうやって子どもに自然と触れ合う楽しさを伝えられるのか、という命題は一種のプレッシャーにすら感じられるものでした。だって虫の捕まえ方も花の名前も知らないし。でも自然が嫌いじゃなければ、むしろ好きなほうなので、子どもが自然嫌いになっちゃうのはそれはもったいないし。でも、今回ネイチャーゲームを体験して、知識がなくても、経験がなくても、そこにいる動物や植物や雨や風、そういったものに触れることが体が自然と触れ合う楽しさなんだ、それが子どもに伝わればいいんだ、というふう



都会でも子どもと自然を楽しむ方法を一緒に体験！



全国銘菓
お茶っこ広場

2012. 10/21
去田ゆかり (宮城県)



お茶っこ広場を始めて1年。最近、被災者の方が私たちボランティアのためにワカメの茎の醤油漬けやウニ・ホタテなど雄勝の特産物を準備して待っていてくれます。全国のお茶やお菓子を堪能しながら、旅行の思い出や日常生活の話に笑い声があふれるようになっています。震災から1年半が過ぎても雄勝は津波の爪痕が色濃く残っている現状ですが、「全国のお菓子をみるだけで明るくなる」「津波で大切にしていたものを失くしたけど、皆さんとつながることができて悪いことばかりじゃないよ」という言葉に、品物だけでなく全国の皆さんの気持ちが被災者の方に届いているのを感じますし、私たちも元気をもらいます。



宮城県雄勝のお茶っこ広場の様子。

↑専用ページはこちら

そんな季節を明るく過ごすために、窓辺に飾られるのが、「トランスパレントペーパー」と呼ばれる、半透明の薄くてはりのある紙でつくられた、星や花などの形の折り紙。何枚もの紙を重ね合わせてつくることで、光を通すと、美しいグラデーションが生まれます。たくさん飾れば、まるでステンドグラスのよう。シュタイナー教育の現場でもよく活用され、クリスマスなどの飾りなどに使われます。

折らずに切って貼るだけでも、透明感のある貼り絵が出来上がります。

トランスパレントペーパーは、日本ネイチャーゲーム協会でも取り扱っています。和紙やセロファンなどを使っても、また違った趣で楽しめます。

太陽の光を
楽しもう

つくり方

トランス・パレントスター



12月より
ネイチャー
ゲームクラブで
取扱開始!!

トランスパレントペーパーや薄い和紙などを使って、窓辺に上手に光を取り入れて楽しんでみましょう。クリスマスの飾りにも！



ネイチャーゲー
ム×トランスパレン
トペーパー、
イベント企画中！
詳しくは、日本協会HP
でお知らせします。

文部科学省
未来をつくる
BOOK
未来をつくるための実践的アイデア集

被災地を忘れず復興への思いを持ち続け、どんな未来をつくりたいのかを問い続けること、それが持続可能な社会につながると信じています。

※ESD的な学びあいのお場を生み出すためのツールです。ESD-Jにて700円で販売中。



シェアリングネイチャーを活かしてESDを進めましょう。

沖縄県国頭郡 大島順子 (おおしま・じゅんこ) さん
ESD-J理事
日本ネイチャーゲーム協会におけるESD-J代表権者
ESD-JのHP→<http://www.esd-j.org/>



ネイチャーゲームでひろがるつながる

ESDJの活動でネイチャーゲームを行うこと自体は少ないが、「ESD実践の中で、自分と異なるものを受け入れていく際の心の持ちようや、相手に寄り添って考える姿勢を持つ」とするときに、シェアリングネイチャーの考え方が活かしてくるように思う」と大島さんは話してくれた。まもなく一つの区切りを迎える「ESDの10年」だが、震災を経えます。本当に大切なものについて、この対話を続けていくことが、これからのESDにつながるべく思う。

『ESD』は2003年に発足し、2005年から始まった「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」を追い風として、市民の先導によってESDを推進するネットワーク団体。NGO・NPO・教育関連機関・自治体・企業・メディアなどの組織や個人がつながり、ESD推進のための政策提言、ネットワークづくり、情報発信を行い、日本ネイチャーゲーム協会も団体会員として登録している。

ESD-I-J

「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議



あなたの 本棚見せて!



うめざきやすし
梅崎靖志さん (山梨県)

風と土の自然学校代表。自然体験型の環境教育に携わって20年間。大地に種を播き、自然とつながるライフスタイルを実践&伝える活動に力を入れている。趣味は養蜂。



梅崎さんの この1冊!

「足もとの自然から始めよう」日経BP社

エコフォビアをご存知ですか? 意味は、自然恐怖症。発達段階を無視して小さい頃から危機的な地球環境問題について学ぶと、足下の自然までが恐怖の対象となり、環境への無関心を引き起こすというものです。本書には、自然恐怖症を作らないための発達段階に応じた環境教育活動が、具体例と共に述べられています。幼い頃の楽しい自然体験は、環境への関心を育む土壌となるでしょう。自然体験活動に関わるすべての人にすすめる本です。

おすすめ本ベスト5

- ①「足もとの自然から始めよう」
日経BP社 (作: デイヴィド・ゾベル)
- ②「パーマカルチャー菜園入門」
家の光協会 (監修: 設楽清和)
- ③「奇跡のむらの物語」
農山漁村文化協会 (編著: 辻英之)
- ④「コミュニティデザイン」
学芸出版社 (著: 山崎亮)
- ⑤「タネが危ない」
日本経済新聞出版社 (著: 野口勲)

第23回 全国ネイチャーゲーム研究大会 IN 東京 TOKYO温故知新 ~教えてあげたい江戸の魅力~ (仮)

本大会では、全国の仲間たちに、江戸から連綿と続く暮らしの中の自然観や、培われてきた文化・伝統を体験していただきます。新公益法人への移行記念パーティも予定しておりますので、ぜひご参加ください。詳細は日本協会ホームページをご覧ください。
日程: 2013年6月7日(金)~9日(日) 2泊3日
会場: 代々木オリンピックセンター (渋谷区)

ネイチャーゲームクラブより お知らせ

ネイチャーゲームクラブでは、取扱商品における一般価格・会員価格をなくし、価格を統一することになりました。新価格での販売開始は2月中旬頃を予定しています。またグッズ販売による会員サービスについてはセール等を実施する予定です。

実践事例・研究報告 募集

下記の分野で事例を募集しています。是非ご応募ください!

※ホームページから、様式ダウンロード及び過去の事例・研究の閲覧できます。

○分野

1. 地域実践/2. 講師活動/3. コーディネート活動/4. 学校教育における活動/5. 幼児教育・保育における活動

○応募締切り: 2013年3月31日



○応募方法: 所定の様式に記入し、メールで応募。
○送付先: 日本協会 事例・研究係
jirei@naturegame.or.jp

ネイチャーゲーム奨励賞募集

ネイチャーゲームに関するすぐれた実践や研究を奨励しています。積極的にご応募ください。(自薦・他薦問いません)

- ・指導者養成部門 (個人での実践活動・研究活動)
- ・普及部門 (組織での実践活動・研究活動)

○応募締切り: 2013年3月31日

○応募方法: 指導員ハンドブック理論編 (第6版) P.155、又はホームページ参照。

○送付先: 日本協会 奨励賞係
shoreisho@naturegame.or.jp

専門委員会開催報告

●指導者養成委員会

9月14日(金)

- ・2013年度リーダー養成講座の変更案
- ・ハンドブック第7版改定案
- ・トレーナー養成講座審査 など

●アクティビティ開発認定委員会

11月3日(土)

- ・新ネイチャーゲーム第二次審査実施

新ネイチャーゲームトレーナー誕生

2012年11月より新たに2名のネイチャーゲームトレーナーが誕生し、合計29名となりました。今後、各地でのリーダー養成講座やフォローアップセミナーで主任講師を務めます。よろしくお願いします。



福田和子 (山口県)



古田栄子 (宮崎県)

お詫びと訂正

本誌『ネイチャーゲームの森vol.79』(2012年9月号)に誤記がありました。関係者の皆様、読者の皆様、大変申し訳ありませんでした。下記に訂正文をお知らせいたします。

誤: 長野の幼稚園教諭、原礼子さん

正: 長野の公立保育園園長、原礼子さん

日本協会年末年始休業のお知らせ

2012年12月29日(土)~2013年1月3日(木)

ネイチャーゲームを 体験しよう!

- ❖体験イベントは全国各地で参加できます
- ❖公認講師を呼んで体験会や研修会が開催できます
- ❖リーダー養成講座ではより深い体験ができます

モバイルサイト ▶



ネイチャーゲームに関する情報はwebで
<http://www.naturegame.or.jp/>

読者プレゼント



特別なダックコール！



ゾウのウンチをリサイクル！



どのくちばしが一番好き？

1 アナンドのお土産 1名様

2012年8月に実施したアナンドツアーで、参加者が滞在した「アナンド村」で販売されているプラスチック製のダックコール。音色は木製のものよりほんの少し高い音が出ます。
(提供：日本協会)

2 ゾうさんペーパー 2名様

象のウンチが原料の手づくりペーパーは、スリランカでのんびり作られているのだそう。関連商品の売上げの一部が、ゾウの保護活動や子どもたちの環境教育に役立てられます。
(提供：ネイチャーゲームクラブ)

3 絵本『干潟のくちばしじまん』 1,300円(定価) 1名様

鳥たちのくちばしの形と食っている生き物の関係に焦点をあてた絵本。干潟に住む鳥たちのさまざまな形・長さのくちばしを見比べながら、干潟の生態系について知ることができ

どのくちばしが一番好き？ ます。
(提供：星の環会)

【編集後記】

※文化人類学者である竹村真一さんの著書『宇宙樹』を読みました。ネイチャーゲーム「わたしの木」が解説されている章があり、お勧めです。(ちゃ)
※いよいよ今年も残り少し。年賀状の準備ができていないことに気づき慌てます！1年の最初に見る大切な人たちの近況。元気と知るだけでうれしい便りですね。(しな)

表紙の写真

米国カリフォルニア州アナンド村、ロータス湖を見下ろす丘にて。(撮影：藤田航平)

Sharing Nature News Letter

ネイチャーゲームの森 第80号

発行日 2012年12月15日

発行人 西澤信雄

発行所 社団法人日本ネイチャーゲーム協会

〒160-0004

東京都新宿区四谷4-13-17 ワークスナカノ2F

TEL 03-5363-6010 FAX 03-5363-6013

http://www.naturegame.or.jp/

jimukyoku@naturegame.or.jp

編集 佐々木香織・水信亜衣

デザイン 橋本陽子(ビー・ビー・エフ)

田崎恭子(リクバ)

第一資料印刷(株)

安藤美紀子(P.6)

第一資料印刷(株)

イラスト

DTP

本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断掲載を禁じます。



この情報誌はスポーツ振興くじ助成金を受けて作成しています。

読者アンケート

本誌がさらに魅力的な情報誌になるように、読者の皆さまの声を聞かせてください！ アンケートに答えていただいた方の中から抽選でステキなプレゼントをさし上げます。プレゼント当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

読者プレゼント締め切り日 ▶▶▶ 1月15日

●あなたのお名前

●会員ID. (または、ご住所/電話番号)

●あなたはネイチャーゲームの会員になって何年たちますか？

☐ 1年未満 ☐ 1～3年 ☐ 3～5年 ☐ 5～10年 ☐ 10年以上 (年)

●本誌『ネイチャーゲームの森』についてご評価ください。また、その理由を聞かせてください。

A. 大変参考になる B. 参考になる C. 普通 D. 参考にならない
理由 ()

●今号の中で良かったコーナーに○、普通だったコーナーに△、いまひとつだったコーナーに△をつけてください。

日本の民話から「きつね火」……………() イベントレポート ……………()
特集「自然と調和する暮らしを実践するアナンド村」…() 自然を丸かじり《太陽の光を楽しもう！》…()
シェアリングネイチャーを深めよう ……………() ネイチャーゲームでひろがるつながる《ESD-J》…()
テーマ別実践ヒント《高齢者》……………() あなたの本棚見せて！ ……………()
達人から学ぶ「学びを実践に活かそう！」…() ネイチャーゲーム川柳 ……………()

●ネイチャーゲーム川柳の投稿、本誌へのご意見、ご要望等 自由にご記入ください。

●プレゼント希望 (ご希望に添えない場合もあります。ご了承ください)

☐ ① ☐ ② ☐ ③ ☐ どれでもOK ☐ プレゼント不要



FAX 返信

03-5363-6013

メール返信

mizushina@naturegame.or.jp

プレゼントの締め切り日を過ぎても、アンケートの返信は受け付けています。

webで回答!!



ネイチャーゲーム川柳

ネイチャーゲームのおもしろい体験、失敗談、ちょっとしたいい話を川柳でお楽しみください。

自然感	虫めがね	ブーンブン	体験場	予定外	鼻に指	こうなんだ	あわてるな	その他8句
現地だけの宝物	ミクロの世界を	やぶ蚊だらけの	下見とちがい	質問言われて	動物博士	蛇の見える	自分の口調に	
	エコ体験	サウンドマップ	おおあわて	四苦八苦	得意顔	目の高さ	歯止めかけ	
(幸夫/東京都)	(幸夫/東京都)	(洋子/北海道)	(但/神奈川県)	(但/神奈川県)	(浩子/北海道)	(目線新発見/埼玉県)	(原ねえ/岐阜県)	

—— 特 選 ——

つかまらぬ
ガに同情される
コウモリや
運動不足マン・埼玉県

ネイチャーゲーム川柳 募集中!

あーあるある！と共感できる楽しい川柳をお待ちしています。特選の方にはプレゼントをお送りします！ 投稿先→mizushina@naturegame.or.jp



2013年4月、 日本ネイチャーゲーム協会は、 日本シェアリングネイチャー協会 として生まれ変わります。



当協会では、行政における公益法人改革に沿い、
公益社団法人への移行を目指し、準備を行ってきました。
理事会・総会での議論を進め、
広く会員からの意見収集を行いながら検討を重ねた結果、
団体名を「公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会」と
変更することになりました。
ネイチャーゲームをはじめとするシェアリングネイチャー活動を通して、
自然とふれあう楽しさ、自然から学ぶよろこび、
自然との一体感により生まれる心の平安を知る人を育み、
人が自然を尊重し共生していく社会を目指して活動将继续していきます。

お問い合わせ先

社団法人日本ネイチャーゲーム協会

TEL 03-5363-6010 FAX 03-5363-6013

jimukyoku@naturegame.or.jp

URL <http://www.naturegame.or.jp/>

(2013年4月～)公益社団法人 日本シェアリングネイチャー協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-13-17

ワークスナカノ 2F



NATURE GAME®

地球と遊ぶ。
自然と話をう。